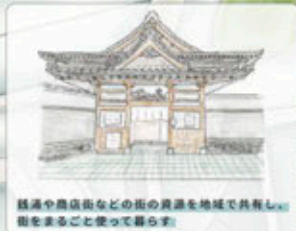


# 共有して暮らす木密のウラニワ

東京都足立区千住西地区の無接道家屋群を対象とした  
空間と暮らしを共有するライフスタイルのための防災改修計画

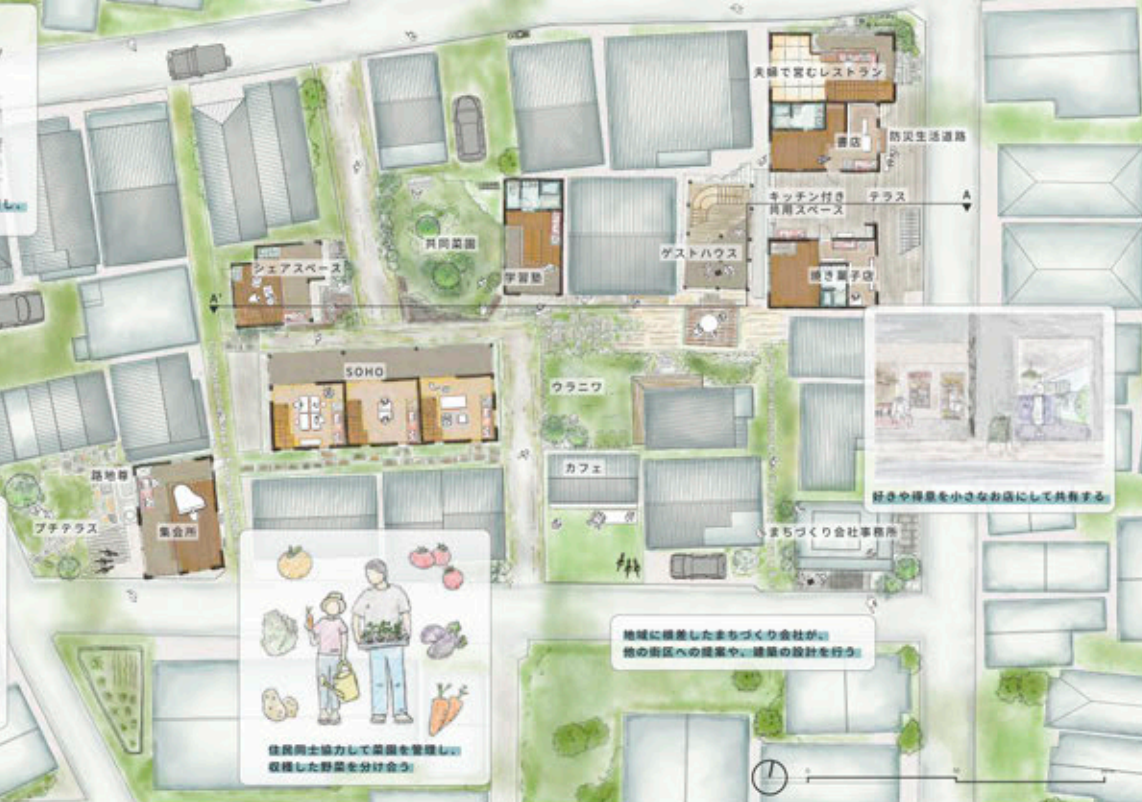
木密都市のさらに裏側に潜む無接道家屋群には、住民たちが共有する土間のような、境界性の曖昧な通路が存在している。私たちはそこに、みんなで共有するための「ウラニワ」をつくった。人々はウラニワを介して、空間や暮らしを共有するようになる。それによって培われる人々の関係は、非常時の自助・共助を引き出す強力なコミュニティを生み出すだろう。ボトルネックとなる個別更新の停滞を、丁寧なマネジメントによるいつもの暮らしへの付加価値の創出で解消することで豊かで安全な暮らしがウラ側から始まっていく。



銭湯や商店街などの街の資源を地域で共有し、街をまるごと使って暮らす。



空き地や空き家は誰もが使える街のリビングのような場所として共有する。



住民同士協力して菜園を管理し、収穫した野菜を分け合う。

地域に根差したまちづくり会社が、他の街区への提案や、建築の設計を行う。

防災生活道路



ウラニワ

プチテラス



## 継承すべき暮らしと空間のバタン

リサーチにより得られた木密の特徴的な環境や都市構造を4つのバタンとしてまとめた。ウラニワの空間構成はこれから導き出されている。特に、豊かな用途混在や、境界の曖昧な通路などは、共有するライフスタイルを支える空間的・文化的基盤ともなる重要なものである。

### 01 豊かな住居混在

混在した住居の中で様々な用途が期待できる。バタンとしてまとめる。

### 02 小さな建築群

小さな建築群と隙間が重なり、ヒューマンスケールな身体感のある空間群を生み出す。

### 03 人々のための路地

路上は遊び場、玄関先は談笑の場として使われ、それを避けるように動線が生み出されている。

### 04 共有された通路

無接道家屋への通路は、住民たちが共有された土間のような境界のない空間である。

### バタンの活用 (AA'断面図)

#### 03 防災道路に面した開放感のあるテラス

#### 04 コモンズ空間として機能するウラニワ

#### 02 ヒューマンスケールの空間を継承した建て替え

## マイクロエリアマネジメントによる新たな価値の創出

地区の危険度等で判断された足立区の要請を受け、まちづくり会社が土地を取得。

街区スケールのエリアマネジメントと幅員2.7mの協定通路で基準法の特例を適用し更新を進める。密集して住まうことによる課題を価値に変え、持続的に事業を展開する。

段階的整備タイムライン

無接道家屋の分布状況

計画対象地の状況

整備スキーム

行政	地域の企業・個人
委託・出資	出資
まちづくり会社	
賃貸	分譲
事業	テナント
	住戸

## 地域を守るウラニワ

共有する暮らしにより新たな価値を得ることでウラニワは拡張され、地域に有機的なネットワークを形成する。それは消火可能性の向上や延焼の防止に貢献し、災害から地域を守る。人々が関わり合う豊かな暮らしと、災害時の安全性の向上の好循環は、普段見えていないウラ側から少しずつ広がっていき、いつしか地域全体を包み込んでいく。

地域の災害に対する安全性の向上

ウラニワを計画地外へ展開し、公園などと連続したことで、避難経路の確保と延焼の防止を実現する。

計画対象地

北千住駅

日光街道 千住西

国道4号

河川河敷

公園として開放される河川敷は、ヘリポートや緊急避難場が整備され、災害時の救助・避難の拠点となる。

商店街の再生

共有する暮らしにより、街の機能を使うようになることで、商店街や集客を始めた地域資源に活力が戻る。

工場跡地の再整備

防災公園と集合住宅、消防施設を整備し、災害への脆弱性を低減する。